

一病息災

一病 息災

带状疱疹と疱疹後神経痛

サンモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

帯状疱疹は水痘を起こすのと同じヘルペスウイルスの水痘・帯状疱疹ウイルスによって引き起こされます。水痘・帯状疱疹ウイルスによる最初の感染が終わると、ウイルスは脊髄神経や脳神経の神経節に入り込み、そこに潜伏しますが、ウイルスが再活性化された際に帯状疱疹という形で発症するのです。帯状疱疹は、一度のみで一度と発病しないこともあります。水痘・帯状疱疹ウイルスによる最初の感染が終

病気の解説

病気の解説

帯状疱疹は水痘を起こすのと同じヘルペスウイルスの水痘・

てから再び起こることもあり、エイズやホジキン病のような疾患で、身体の免疫機能が低下している時には発症しやすくなります。

実際には、帶状疱疹は、片側の一定神経領域に神経痛様疼痛で発症し、発赤を伴う小水疱が、おかされた神経に局限した皮膚に現れます。症状の出ている部位は、軽く接触した程度の刺激に対してもひどく敏感で、激しい痛みを伴うことがあります。通常は五日ほどで乾燥し始め、痂皮を形成後、軽い瘢痕をもつ

傷害された神経線維の治癒を促し、皮膚症状治癒後に神経痛をきたすことはありません。ただ、本症例のように、長期間、疱疹後神経痛を患っている場合には、数か月の治療期間が必要となりますので、できるだけ、罹患早い段階からの光線治療が、帶状疱疹の治療には大事なのであります。

症 例：72歳、女性

主訴：帯状疱疹の病変部に一致したピリピリとした痛み。

起始・経過：約1年前に、右側胸部、腋窩、背部にかけて広範に帯状疱疹が出現。しばらくして、疱疹は瘢痕を形成して治ったが、それ以降、同部位にピリピリとした痛みが残り、瘢痕のためか、上肢の挙上も困難となった。近医にて、神経ブロック治療（約40回）を受けたが、神経痛様の症状は一向に改善せず、知人の紹介で来院した。

治療：①左側臥位にて20分、4灯照射。
右肩から上背部（BD）、腹部（BD）、膝（AB）、足裏（AB）
②座位にて20分、3灯照射。
右肩から上腕（BD）、背部（BD）、右腋窩から側胸部（BD）

経過：治療開始当初、治療後に若干の違和感を感じていたが、10回の治療施行頃から、ピリピリとした感覚は減り、40回の治療終了時には、痛みを認める範囲が限局され、狭まってきた。また、当初見られた上肢の拳上困難も改善し、徐々に拳上は可能となっている。

病氣と光線療法

半は数か月でおさまりますが、1年以上続くことも10～20%に認め、稀には10年以上続くこともあります。生活の質を著しく損なうことになるのです。

サナモア便り

vol.20

宇都宮正範

第十期
成講座、
サナモア光線治療師
養成講座のお知らせ

第十期サナモア光線治療師養成講座を、七月に東京において

日 時 .. 一月二十二日（土）
午後二時三〇分
場 所 .. サナモア光線治療院
三階会議室

医療に関連した話題の講演や
治験例の報告を中心とした研究
会を開催していますので、一般
のご愛用者の方も是非ご参加下
さい。なお参加は無料です。

医療に関連した話題の講演や
治験例の報告を中心とした研究
会を開催していますので、一般
のご愛用者の方も是非ご参加下
さい。なお参加は無料です。

絡ください。なお、日程等につ
きましては、次号に掲載する予
定です。

が、これまでに資格を取得され
た方は、六十名を越えています。
今後も、継続して実施する予定
でありますので、光線治療院の
開業を検討されている方やサナ
モア光線療法について勉強した
いとお考えの方は、是非、ご連
絡ください。なお、日程等につ
きましては、次号に掲載する予
定です。

第十八回

「光と熱研究会」の
お知らせ

光線とともに

櫻井悦子 光線治療師（九期）

住所 .. 兵庫県明石市朝霧町
二一四一六六

電話 .. 〇七八一九一七一六八五

このコーナーでは、光線治療
院を開業され御活躍中の先生方
や、光線治療師の資格を取得さ
れ、光線療法の啓蒙・普及活動
に携わっている先生方をご紹介
させて頂いております。

治療院 & 治療師紹介



櫻井悦子先生

私とサナモア光線との出会いは
四十年前になります。その頃の私は、いつも、しんどい、しんどい
と言つたのが「口癖」で、医者からも虚
弱体質のお墨付きを頂いておりま
した。肺炎、腎臓病、ヘルニア、
リウマチ、筋無力症、乳がんなど、
数え切れない病気になまされてい
たある時、日赤に勤めている友人
から、サナモア光線を紹介されて
上野貞子先生にお会いしました。
その時、親身になって相談に乗つ
てもいい、色々なことを教えて頂
き、迷わずに光線療法を始めたお
かげで、様々な病気を克服する

とに成功し、今では薬は一切使わ
ずに、健康で快適に過ごしております。

◆募 集◆

サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、
サナモア光線療法の普及に
ご協力頂ける方、治療院の
開業を検討なさりたい方は、
お問い合わせください

〒153-0063
東京都目黒区目黒1-23-11
TEL (03) 5759-3710
FAX (03) 5759-3720

最後になりますが、最近、私が
サナモア光線を紹介した方々と会
うたびに、「どんな病気になつても、
サナモア光線教組様がいてくれる
から毎日が元気で幸せよ」との声
を聞かせて頂き、励みになつてお
ります。

第16回

日本療術学会から

愛媛県松山市 松山全日空ホテル
平成16年11月7日(日)・8日(月)

シンポジウム

健康寿命と
光線療法

全療財団光線部門

代表世話人 宇都宮光明

健康寿命とは、日常生活に障害がない、身体的、精神的、社会的に良好な健康状態を保つ生存期間”と言えるが、加齢に伴う身体・精神機能の低下、疾病罹患に個人差があるため、健康寿命を延ばす方策がさまざまな観点から提言されている。演者は健康寿命に益する生活習慣に

太陽光線の恵みは欠かせないものと考えているが、その数ある恵みの中から、ビタミンDを生成する利点とビタミンDの疾病予防効果、特に癌予防について考察する。

サナモア光線療法の特長

本題に入る前にサナモア光線療法の特長に触れておく。現在、多様な人工光線療法があるが、サナモアは光線療法の原点の日光療法に近似した光線、すなわち紫外線から赤外線まで放射することから、日光療法に準じた人工光線療法として応用できることがある。

光線でビタミンDを生成する利点

光線のビタミンD生成作用は紫外線の抗くる病作用で発見されたが、母乳を含め地上の食品では補えないビタミンDを生成して欠乏症を防ぎ、食品で重篤なビタミンD過剰症を起こさない巧みな自然の摂理である。ビタミンDにはカルシウム代謝調節作用と細胞分化誘導作用があるが、カルシウム代謝に関与す

るビタミンDを生成すると、カルシウム代謝には関わらないが細胞分化に関わることが示唆される。換言すれば、健康寿命に益するビタミンDを十分に補えるのは光線だけであり、カルシウム代謝に関係するビタミンD欠乏症と過剰症は文明発祥前にはなかつた文明病である。

これに連なるビタミンD所要量は、カルシウム代謝に関わるビタミンDが欠乏してカルシウムパラドックスを起こすと、くる病、骨軟化症、骨粗鬆症のみならず、動脈硬化症、高血圧症、糖尿病、免疫異常、感染症、悪性腫瘍など生活習慣病の危険因子になることは昨年の本学会で報告した。そのために必要なビタミンD所要量は国で異なり、わが国の成人の基準値は最も低く100 IU (国際単位) とされるが、諸外国では骨粗鬆症の予防に400 IUは必要との見解が大勢である。加えて後述するようにビタミンD関

連化合物が細胞分化に関係することがが疫学的に示唆される。無論、常に光線を浴びていればビタミンD所要量の議論は必要ない。

皮膚癌を予防する光回復

近年、紫外線は皮膚癌の原因と負の面のみを強調し、ビタミンD生成など功の面は切り捨てられる風潮がある。しかし現実にわが国で紫外線による皮膚癌が極めて稀なのは、光線の恵みを受けるために獲得した神秘的能力、すなわち紫外線による遺伝子(DNA)の傷を紫外線が活性化する癌抑制遺伝子と光回復酵素

紫外線被爆量と癌予防効果

■紫外線被爆量が多いアメリカ南西部諸州と少ない北東部諸州の乳癌、大腸癌、卵巣癌、前立腺癌、悪性リンパ腫、膀胱癌、食道癌、腎臓癌、肺癌、肺腺癌、直腸癌、胃癌、子宮癌の罹病率を比較し、後者で罹病率が高く、死亡率がほぼ二倍になる癌もある (ウィリアム・グラント博士)。

■悪性黒色腫の屋内労働者の発症率は屋外労働者の二倍 (ヘレン・ショウ博士)。

紫外線被爆量と癌予防効果

紫外線被爆量の多寡と癌罹病率の関連については、1980年にガーランドが乳癌と大腸癌の罹病率、死亡率がアメリカ南部で最も高く北部で高い疫学的事実について検討した報告に端を発する。その後、同様な研究結果が卵巣癌、前立腺癌、悪性リンパ腫で報告された。2002年にグラントは紫外線被爆量が多いアメリカ南西部諸州と少ない北東部諸州の癌罹病率、死亡率を詳細に検討し、表示した13の癌で紫外線被爆量に癌予防効果があり、被爆量が少ない地域では多い地域に比べ死亡率がほぼ二倍になる癌もあると報告した。また1982年にショウ博士らは悪性黒色腫が屋内労働者に多く屋外労働者の二倍になると報告している。

△四ページからづく

これらの報告は紫外線被爆量が増すほど癌予防効果があることを示している。これに関連して、1981年に阿部らが実験的に、ビタミンDがマウス骨髄性白血病細胞の増殖を抑制しマクロファージへの分化を促すことを報告し、ビタミンDが腫瘍細胞のビタミンD受容体を介して正常細胞への分化を促すことを明らかにした。そのため副作用のない抗癌剤として、細胞分化誘導作用のみが強いビタミンD製剤の開発が期待されている。

健康長寿はシンプルライフにある

健康寿命を保つて限界寿命を生きる、健康長寿こそすべての人の願いである。その願いを叶える基本は、ヒトもヒトの思惑で変わらない自然の摂理の下で生きる動物である、この不变の真理を自覚することである。すなわち健康長寿は自然と共生するシンプルライフ、食事は好き嫌いなく腹八分、移動は自分の足そして必ず光線を浴びることを忘れてはならない。

目的

糖尿病で病院に通院中、平成11年3月頃に視力低下、視野狭窄を自覚したため眼科を受診、網膜剥離と診断されレザー光線治療を受けたが、視力障害はそれからも進行した。そのため光線療法を紹介されて来所し、視力の回復を認めたので概要を報告する。

症例

〔患者〕 患者 63歳 女性 主婦
〔既往歴〕 糖尿病以外に特記すべきことなし。



社団法人 神奈川県療術師会

海渡 一二三

網膜剥離の治療経験

一般演題

〔現病歴〕 糖尿病で通院中、視力障害を自覚し眼科受診、網膜剥離と診断されてレザー光線治療を片目ずつ20回以上受けた。

その都度目の痛みが辛く少し休んで帰宅したが視力は回復せず、人や物がぼやけて輪郭が分かる程度になった。そのため失明の不安を息子の嫁に話した。嫁は実家が光線療法の愛用者で、嫁から光線療法を強く勧められ、藁をもつかむ心境で平成12年6月21日に来所した。

〔初診時所見〕 患者は演者がぼやけてはっきり見えず、日常生活は手探りでしている状態であった。また足指の巻き爪、腰痛、両膝痛についても治療を望んでいた。

演者は光線を照射した際に見られる皮膚の色むらは、効果が出てくると平均したピンク色になることを長年観察している。この患者では顔以外の皮膚の色むらは治療2ヶ月頃から目立たなくなり、腰痛と巻き爪の痛みは訴えなくなったが、顔には色むらがあり、視力に回復の徵候がないため、以前治療した糖尿病による眼底出血の症例に準じて、目への照射時間を60分に延長した。治療を始めて半年を経た平成13年1月頃から顔の皮膚の色むらはなくなり、健康的なピンク色になってきたが、その頃から少しづつ視力の回復を感じるようになり、翌2月の中旬には前より物がはっきり見えまるまで回復した。この視力の回復は病院でも確認されたので、それからは当院での治療の回数を減らし自宅治療を併用した。

治療ならびに結語

患者の視力が大幅に低下したのは、糖尿病に特有な糖尿病性網膜症が病因の糖尿病性網膜症のため新生血管が増殖して出血を反復して起こし、延いては網膜を挙上して牽引性網膜剥離を起こしたためと考えられる。このような視力障害に光線療法を行った際には目に必ず目を閉じて照射するが、可視線や近赤外線は眼透光体を損傷することなく網膜に達して吸収され、眼底の血管を強化し、循環障害を改善し、網膜の出血や浮腫を吸収し、視力障害を改善する効果が期待できる。

病歴から糖尿病性網膜症から網膜剥離を併発した可能性を考え、治療は長期に継続する必要があることを告げ了解を得て治療することにした。カーボンはBとDを組み合わせ、4台で4灯照射をした。まず側臥位で目に閉じて30分、腰と臀部に30分、膝に15分、足指の爪に15分、次いで腹と後頭部と足裏と

足指の爪に各10分照射してから仰臥位で左側頭部、右股関節、左から膝、右から足首に各15分、次いで右側頭部、左股関節、右から膝、左から足首に各15分照射した。なおレザー光線治療は当院での治療を始めてから受けている。その後も視力は徐々に視力障害を自覚する前の状態まで回復したため、平成14年8月に病院で精密検査を受けるように勧め、糖尿病、眼底所見とも良好に経過していることが確認されたので、当院での治療は中止し自宅で治療を続けるように指示した。

治験例報告

突発性難聴が光線療法で軽快した

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

症例 43歳 男性 会社員

症状 職場の配置転換で、不慣れな部署に移つてから緊張の毎日が続いていたが、四ヶ月が過ぎたある日、突然、右の耳に閉塞感を認め、聞こえなくなる。

近所の耳鼻科で検査した結果、突発性難聴と診断され、これは精神的ストレスなどが原因で内耳の血液循環が急に悪くなつて発症すると考えられているが、本当の原因はまだ解明されていないと説明を受け、約一週間の薬物治療を受けた。しかし、症状は一向に改善しなかつたため、サナモア愛用者の姉の勧めにより来所した。

療法経過 治療は集光器を使用して、BDカーボンで、右耳30分、左耳10分、後頭部20分、閉

眼にて顔面10分、喉頭部10分、足裏10分の照射を施行した。翌

日から、自宅での治療は、同様の方法にて一日に二回は照射し、さらにABカーボンで、腹部10分、膝5分を加えるよう指

射となつたが、一週間でかなり聞こえるまでに回復した。二週間で普通の会話が十分に聞き取れり、三週間経つた頃には、全く元に戻つたことを自覚できた。

(TEL) 078-333-11358

治験例報告

乳がんを光線療法で治療

福岡県春日市 育美健康光線療研

山崎 いく子氏報告

症例 85歳 女性

母親の乳頭の一部がへこみ、そこから少し出血が見られるので

どのように治療したら良いかと

いう電話相談を受ける。こちら

からは、BDカーボンで20分患

部を照射して、さらに集光器使用にて、30分から60分くらい照射するよう指示し、必ず病院で

診察を受けるように話した。一か月後の電話連絡では、近くの

病院の医師に、細胞検査の結果から乳がんと診断されるので、すぐに手術をした方が良いと説明されたが、患部からの出血も光線療法で止まっており、母親自身、もう高齢なので光線療法で治したいと強く希望した。

療法経過 治療はBDカーボンにて、足裏、膝、腰部、腹部、背部の基本照射を各20分ずつ行い、患部である乳頭には、照射時間は長ければ長いほど効果があるから、時間のある時はつねに照射を心掛けるように指示した。また、違う病院でも診ても

電話があり、やはり、大学病院でも乳がんと診断されたが、高齢を理由に、手術はせずに、薬物治療を勧められたとのことで

うつた。その後、光線療法を毎日のように受け、良好に経過し、一年後に来所したが、その時には、乳がんは分からぬままでに改善していた。しかし、念のため、今後も光線療法を続けるよう指示した。

(TEL) 092-581-1139

五八一一二〇三九
五七二一一五七三

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモア A (緑印)、B (赤印)、C (青印)、D (黄印) カーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともどもご愛用者各位の御信頼を戴き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことはご存じの通りです。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、当研究所が独自に広めたカーボンの呼び名のA、B、C、Dや緑印、赤印、青印、黄印を勝手に流用したり、あたかもサナモアと同じと見せ掛けて販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる人をあざむく行為は断じて許されるものではありませんが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任は持てませんので、皆様もご注意下さい。

なおカーボンについて疑問の点がありましたらお問い合わせ下さい。

株東京光線療法研究所

サナモア光線療法体験記

五十年前、私は光線療法で奇跡的に一命を取りとめました

川崎市 白子 千代子様

私の体験記はとても古いもので、昭和十九年春、肋膜炎にかかり、一度は回復しましたが、二年後に再発し、今度は脊椎力リエスを患いました。一回目は足の付け根に腫がたまり、次は右の脇腹にたまりました。医者の勧めにより、ギブスベッドに寝て、一年半もの間、自宅で寝たきりの生活を余儀なくされました。身体は痩せ細り、食事はもとより、水も飲めないような状態でした。その時、私は二十三歳で、食べられるうちは生きられる。この若さで死んでたまるかと必死でした。水も飲めなくなり、朝、目が覚めるとまだ生きていると思う状態でした。

その時、知り合いのおばさんが、サナモアへ行き光線をかけてもらつたところ、とても気持ちが良かったので、私にもどうかと先生にお話してくれました。

先生は、そのような病気にはきっと効果がありますとおっしゃって下さいました。昭和二十三年の十二月二十五日からです。先生自ら、光線治療器を持ってきて下さいました。膝から下、足の裏とかけて下さいました。先代の先生でしたが、一週間毎日かけて下さいました。先代の先生は七十八歳になりましたが、元気に過ごしております。これまで、色々と病気をし、現代医学にもお世話になりました。でも私は光線しかりませんでし。今日あるのも宇都宮義眞先生とサナモア光線のおかげと感謝しております。これからも、解決して光線は離せません。現在の体験記にはなりませんけど、お正月元旦にお雑煮を食べられたのです。さうに腫がたまつたところや全身に一生懸命かけました。腫のところは梅干大に赤くなり、一枚一枚、薄皮が剥れ、ある日、そこに穴があき、どうどうとした腫ができました。その腫もだんだんどうすべくなり、骨は塞がつてしましました。レントゲンを撮つたところ、骨は固まつてきていること、私は一命を取りとめました。

サナモア体験記募集

サナモアの効果は体験しないと信じられないところがありますが、実際に効果を体験した体験記ほど説得力のあるものはありません。ついては体験記をお送りくださいますよう、お願いいたします。

なお掲載させて頂いた方には、薄謝を贈呈致します。

(本紙の無断転用を禁じます。)

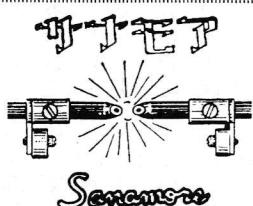
「健康と光線」の購読者を募集します。
また事業の詳細はお問い合わせ下さい。
〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18
サナモア光線協会 TEL(03) 3793-1528
3793-1532

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、季刊紙、「健康と光線」の発行。

一、季刊紙、「健康と光線」の発行
二、サナモア光線治療師の募集と育成の事業を行います。

医学博士 サナモア光線協会
宇都宮 明



サナモア光線協会
趣意書

その後、光線は五年かけ続けました。その時には、もう二十八歳になり、私には青春もなかつたとよく言いました。その翌年には七十八歳になりましたが、元気に過ごしております。これまで、色々と病気をし、現代医学にもお世話になりました。でも私は光線しかりませんでし。今日あるのも宇都宮義眞先生とサナモア光線のおかげと感謝しております。これからも、解決して光線は離せません。現在の体験記にはなりませんけど、こういうこともあった事を御一読頂ければと思い書きました。

その後、光線は五年かけ続けました。その時には、もう二十八歳になり、私には青春もなかつたとよく言いました。その翌年には七十八歳になりましたが、元気に過ごしております。これまで、色々と病気をし、現代医学にもお世話になりました。でも私は光線しかりませんでし。今日あるのも宇都宮義眞先生とサナモア光線のおかげと感謝しております。これからも、解決して光線は離せません。現在の体験記にはなりませんけど、こういうこともあった事を御一読頂ければと思い書きました。